

学年ごとの週時程は、どのような考え方で編成すればよいか。

第4学年を例に説明すると

移行期間中の小学校の標準時数について
〔平成21・22年度〕
【移行期間】

学年 教科等	1	2	3	4	5	6	計
国語	272 (8)	280 (8)	235 (6.7)	235 (6.7)	180 (5.1)	175 (5)	1377
社会	—	—	70 (2)	85 (2.4)	90 (2.6)	100 (2.9)	345
算数	136 (4)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	1011
理科	—	—	90 (2.6)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	405
生活	102 (3)	105 (3)	—	—	—	—	207
音楽	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	368
図画 工作	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
家庭	—	—	—	—	60 (1.7)	55 (1.6)	115
体育	102 (3)	105 (3)	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	567
道徳	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
特別 活動	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
総合的な学 習の時間	—	—	95 (2.7)	100 (2.9)	75~110 (2.1~3.1)	75~110 (2.1~3.1)	345 ~415
外国語 活動	—	—	—	—	0~35	0~35	0~70
合計	816 (24)	875 (25)	945 (27)	980 (28)	980 (28)	980 (28)	5576

第4学年の時数に注目。
週当たり、きちんと整数になっている教科・領域と、小数で表している教科・領域があることが分かる。
整数で表されている教科等は、そのまま週時程に位置づけられるが、問題は小数で表されている教科等である。
基本は、小数で表されている教科等については、週当たりの時数を合わせて整数になる組み合わせを考えることが大切になる。

例えば、

国語	6.7	}	6.7+2.4+2.9=12
社会	2.4		
総合	2.9		
音楽	1.7	}	1.7+1.7+2.6=6
図工	1.7		
体育	2.6		

国語、社会、総合的な学習の時間の組合せ、音楽、図工、体育の組合せを考えて、時間割を編成することが大切。
下記に、その具体事例を挙げてみる。
あくまでも参考事例なので、各学校の実情に合わせて工夫・改善することが大切である。



第4学年の週時程のモデル(28時間)

	月	火	水	木	金
1	音	図25 体10	音25 体10	社15 総20	国25 総10
2	体	図	理	理	社
3	国	国	国	体	国
4	算	算	国	国	理
5	社	総	算	算	算
6		総	道	特	